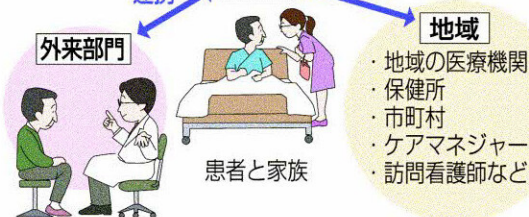


## 入退院支援のイメージ

病気になり入院しても、住み慣れた地域で継続して生活できるよう、切れ目なく支援する

外来・在宅 入院 外来・在宅

連携 連携



## 医療最前線 令和を担う 県立中央病院から

〈185〉

山梨県立中央病院の「総合窓口」とも言える患者支援センター。千野美和看護師は、同センター医療連携・福祉支援科に勤務。病院と、患者が戻る地域との橋渡し役を担う。「患者さんが不安なく退院後の生活を送れるように切

れ目なく支援したい」

急性期医療を担う同病院では、入院して病気がけがの治療を終え退院することになったも、医療や福祉の支援が必要となり在宅看護を受ける人もいれば、リハビリ病院などに転院する人も

いる。それぞれの患者に応じたきめ細かなサービスを提供するため、今年度

院時の状態や退院後の生活の予測もし、患者の思いをくみながら地域の医療機関や福祉サービス、必要な制度などにつなげている。

退院前訪問として、地域の医療・福祉関係者と患者の自宅を訪れ、在宅療養上の指導をする取り組みも始まった。「患者さんが実際に戻る家に出向

に看護の仕事に慣れ山梨県立看護短大（現山梨県立大）に進学。卒業後に保健師の資格も取得した。もともと在宅看護に興味があり、「病気や障害に関係なく誰もが住み慣れた地域でその人らしく暮らせる社会の実現に貢献したかった」と話す。

病棟や外来での勤務を経て、4月から同科に異動が決まった

## 患者支援センター・千野美和看護師

## 入退院前後切れ目なく支援

から患者支援センターの機能を拡大し、看護スタッフも増員した。千野看護師は、退院後の支援が必要な患者や家族に対し、退院後はどんな生活を送りたいのかを聞き取る。入院前から退

くことで、在宅を想定した具体的な環境調整が可能になる」と千野看護師。退院後も訪問し、フォローできる体制を取る。

高校在学中、看護師体験をきっかけ

医療ソーシャルワーカーとパートナーを組み、各案件に当たる。「患者さんや医師、それぞれの思いを受け止め調整する難しさもあるが、各専門職の強みを合わせ、一人一人の患者さんに適した支援ができればうれしい」



ちの・みわさん 山梨県立看護短大（現山梨県立大）卒業後、保健師資格も取得。2002年から県立中央病院勤務。2児の母。

家庭では9歳と5歳の2児の母。夫や両親の協力を得て仕事と子育てを両立している。「土日が楽しみ」と、家族との時間が働く励みになっている。

第2、4木曜日に掲載します